

【会長杯争奪親睦球技大会競技特別規則】

I 用具

- ボール・・・ソフトバレーボール（ミカサ製）
- ポスト・・・バトミントンポスト
- ネット・・・ソフトバレー用ネット

II コート

- (1) バトミントンコートを使用する
- (2) ネットの高さは200cmとする

III 審判の構成

- (1) ゲームは主審1名、副審1名、線審2名で運営する
- (2) 副審、線審、得点掲示員は、相互性で行う

IV 競技方法

1. 競技者

- (1) 1チームのプレーヤーは6人とし、前衛3人後衛3人のポジションに位置して、サービス権を得るごとに右廻りで1つずつローテーションする。なお、サーブが打たれる瞬間には、サーバーを除く両チームの競技者はコート内のポジションに位置していなければならない。
- (2) サービス時の攻守はローテーション制、サービス後の攻守はフリーポジションとする
- (3) コート上でプレーできる男性は3名までとする
- (4) プレーヤーのチェンジは、プレーがストップしている時であれば、どのプレーヤーと何回でもチェンジできる

2. 競技の細則

- (1) ゲーム
 - ① サービスかコートのいずれかを選択するかは代表者の「ジャンケン」によって決める
 - ② 1ゲームの勝敗は15点のラリーポイント制（ジュースあり）とし、3ゲームマッチを原則として行い2ゲームの先取をもって勝ちとする
 - ③ 1ゲーム中双方が14点オールになった場合は、2点差をつけたチームを勝者とする。但し、その場合は17点で打ち切りとする（1点差でも）
 - ④ 得点はラリーポイント制とする
 - ⑤ サーブはエンドライン後方から打つアンダーサーブ1本のみとする。ネットインサーブは有り。第1、3セットの最初のサーブは「ジャンケン」の結果サービス権を得た

チームで行い、第2セットのサーブは第1セットで行わなかったチームが行う。

- ⑥サーブの際、トスしたボールが身体に触れないで床に落ちた場合は、やり直しはできずに、サービス権は相手方に移り、相手に得点される。
- ⑦サーバーは主審の吹笛後すみやかにボールを打たなければならない。主審の吹笛以前に行われた場合は無効となり打ち直しされる
- ⑧ボールへの接触回数は3回までとし、ブロックへの接触回数は1回と数えない。ボールは身体の中のどの部分に当たっても良い。
- ⑨同一チームの2人の競技者が同時にボールに触れた時は、1回触れたものとし、その後、いずれの競技者も引き続いてボールに触れることができる。
- ⑩**特別規則として、男性はアタック、ブロックを行うことはできない**
- ⑪相手方のサーブをアタックすることもブロックすることもできない。なお、ブロック後の1回目の接触は、ブロックの時に触れた競技者を含めて誰にでも許される
- ⑫ボールが、コート区画線を含むコート内に接触したとき、そのボールはインとなる
- ⑬打ったボールが直接、天井や照明器具・審判台等、相手コート内の地面以外のものに当たった場合は、相手方に得点される
- ⑭1ゲーム終了するたびコートをチェンジする。3ゲーム目はどちらかの得点が8点になった時、コートチェンジをする
- ⑮タイムは1ゲーム中1回、30秒以内とする

(3) プレー上の反則

次にあげるプレーは反則となり、相手方に得点される

- ①ローテーション順を間違っサーブを行ったとき
- ②サービスされたボールがネットに触れるか、相手競技者に触れずに相手コートの外側に落ちた時<サービス・フォルト>
- ③サービスされたボールをアタックした時<アタックヒットの反則>
- ④サービスされたボールをブロックした時<ブロックの反則>
- ⑤男性がスパイク（強打）かブロックを行った時<特別ルール>
- ⑥ボールの接触がブロックの接触を除いて、3回を越えた時<オーバー・タイムス>
- ⑦ボールに接触中明らかにボールが止まるようなプレーがあった時<ホールディング>
- ⑧ブロックの場合を除き、同一競技者が明らかに2度続けてボールに触れた時<ドリブル>
- ⑨インプレー中にネットに触れた時<タッチネット>
- ⑩ネットによって分けられた相手コート上にあるボールに触れた時<オーバーネット>
- ⑪エンドラインを完全に踏んで、サーブを行った時